



碧の風

千葉市立川戸中学校
校報 第9号
令和4年12月15日

2022年を振り返って

校長 板垣 章子

今年も残すところ半月余りとなりました。

2022年は皆様にとってどのような1年だったのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症との戦いが始まって3年目となりますが、感染予防を意識しながらの生活には、誰もが閉塞感を感じていることでしょう。加えて、今年、もっともつらくやりきれない事件といえば、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻なのではないでしょうか。多くの人類が平和を願うこの時代に、非道極まりない侵略の状況をニュースで見ると、怒り、絶望感、無力感を抱かずにはいられなかったことと思います。また、国内に目を向けると、安倍晋三元首相の銃撃事件には大きな衝撃が走りました。宗教団体への高額献金や2世問題などが浮き彫りになり、社会のゆがみを再認識することになりました。

このように暗いニュースが多い1年でしたが、私たちの心を明るくする話題もありました。その筆頭はスポーツでしょう。今まさに世界を熱狂させているワールドカップでは、サッカー日本代表サムライブルーが大活躍しました。最後まで全力を尽くす「あきらめない姿」、サポーターのごみ拾い、負けた後でもロッカールームを清掃していた選手たちへの世界からの称賛など、多くの感動を与えてくれました。北京オリンピック・パラリンピックの名シーンや、野球界の大谷翔平選手や村上宗隆選手たちなども、私たちが元気付けてくれました。

川戸中学校においてもさまざまなことがありました。卒業式、入学式、体育祭、修学旅行、夏の総体、碧祭、……。大きな行事と日々の生活が凝縮される中学校生活では、今年もまた、生徒一人一人にとってのかけがえない時間が流れていきました。頑張ったこと、失敗したこと、うれしかったこと、泣きたいほど悔しかったこと、いろいろなことがありました。昨日行われた第2学年の「思春期教室」も、今を生きる川戸中生にとって「命の大切さ」や「心のもち方」を仲間と共に考える大切な時間となりました。

「2022年を振り返って」というテーマとは相反しますが、中学生は未来志向であってほしいと思います。振り返ることも大切ですが、未来を見つめながら「今」という時を夢中で過ごすことが、より重要であると感じます。年末年始を楽しく穏やかな気持ちで過ごし、新しい年には新しい気持ちで学校生活がスタートできることを願っています。

よいお年をお迎えください。